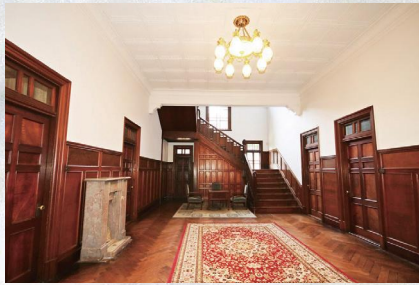


# 西洋館みどころガイド

玄関ホール(本館1階)



玄関に入った来館者を迎えるのは、重厚な造りのホールである。正面の暖炉は大理石製の飾り暖炉で、天井は鉄板を押し出して模様をつけたものを張っている。2階へ続く階段は西洋館を代表する造形美を見せ、手摺りや柱は一木を削ったものである。

食堂(本館1階)



格調高い照明器具に照らされた室内は、大正時代へタイムスリップしたような感覚になる。天井は幾何学模様を配したパネル天井で、折り上げ部分に透かし彫りが施されている。創建当初の調度品が置かれ、創業者や工場の絵も飾られている。

客室(本館1階)



客室は、2階貴賓室が和の意匠であるのに対して、西洋風を前面に出している。天井は鏡天井で周囲にデンタル紋(歯飾り)を造り出し、床周りの寄木は矢羽模様である。小ぶりのステンドグラス製の灯りに照らされた空間は独特の風情を醸し出している。

2階ホール(本館2階)



天井は段差をつけ、壁とともに漆喰塗で、全体としてシンプルな作りをしている。階段に面した大きな窓から射し込む光と、創建当時のシャンデリアの淡い照明により清澄な空間を演出している。大広間入口には牛の毛皮が敷かれている。

貴賓室(本館2階)



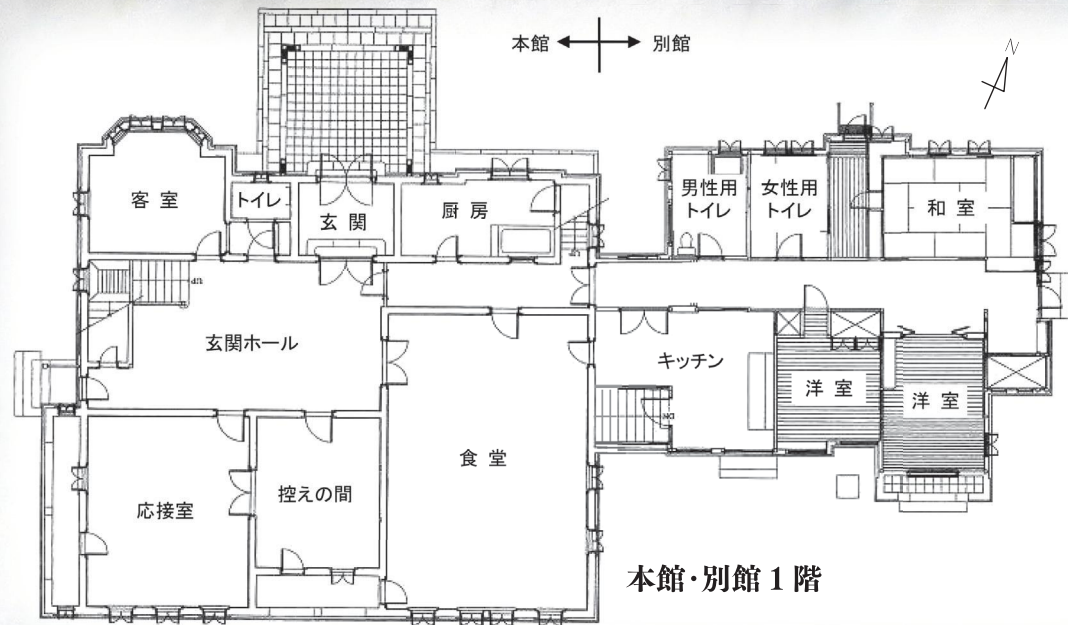
主客の宿泊所。西洋館で最も豪華な造りの部屋である。天井は周囲に組物を配し、内側には格天井と雲を描いた絹布を張る。壁も絹を使った布団張で、照明器具には石川家の家紋が見られる。現在は傷みが著しく一般公開していない。

床の寄せ木模様



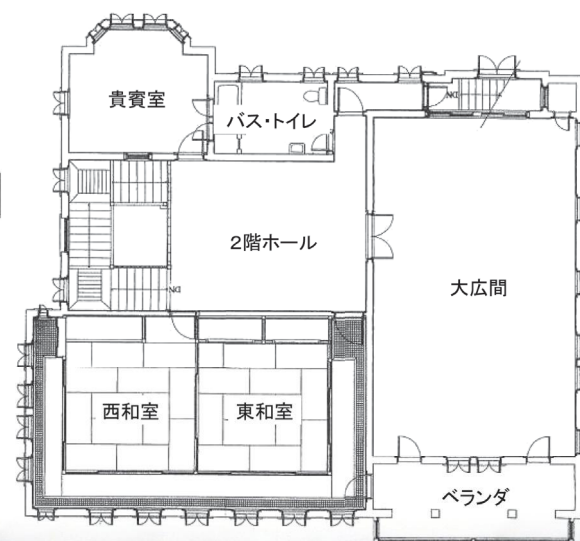
貴賓室

客室



本館・別館1階

本館2階



床の寄せ木模様



大広間

応接室

応接室(本館1階)



天井の折上小組格天井は来客を最高のもてなして迎えたいという施主の思いが込められている。壁には創建当時の絹縁の壁紙が残っており、床には当時のペルシア絨毯が敷かれている。床の中央部は寄木模様のある周囲より一段高くしている。

控えの間(本館1階)



応接室に続く控えの間。床は応接室と同様に、中央部を周囲の寄木より一段高くし、関係性を高めている。部屋の意匠も和風を意識し、天井は変形格天井、壁には長押が見られる。壁の組木や照明器具には中国の文様「雷文(雷電文)」が用いられている。

大広間(本館2階)



赤い絨毯の下はコルク敷きになっており、往時は舞踏会も催されたのだろう。重厚なカーテンボックスとその幕は創建当初のもので、幕にはそれぞれ違う花の模様が織り込まれている。ステンドグラスは四君子(蘭・梅・竹・菊)をモチーフにしたものである。

東・西和室(本館2階)



二間続きの和室は、外国の客人に日本風のもてなしをするために造ったのだろう。縁側には畳の薄縁を敷き、外側を市松模様の寄木が廻っている。欄間は流水を表現しており、川越の名工・野本義明の作品である。床の間は、進駐軍によりクローゼットに改造されている。

別館



高い煙突が特徴的な平屋建ての建物は、本館の賓客をもてなすための厨房等を備えていた。外壁は本館と同じく煉瓦調のタイルを貼っているが、テラゾー(人造石)により柱や長押など和風の意匠を表現している。内部は数回にわたり大幅に改造されている。